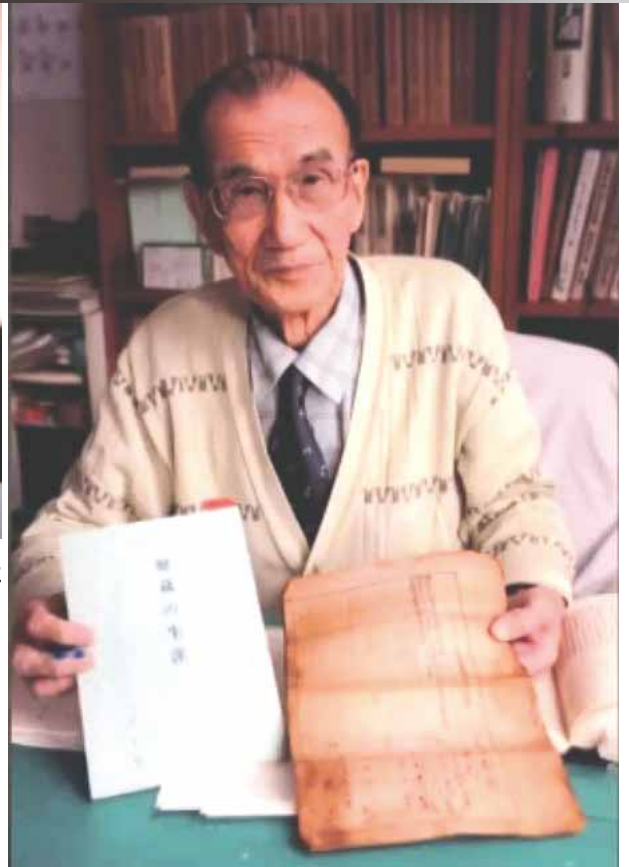


## 河野本道先生と秋葉実先生を悼む



講演のパネリストとして参加された河野本道先生  
(写真提供:駒沢大学OB会)



書齋にて文献を手にとる秋葉実先生  
(写真提供:秋葉一実)

### アイヌ文化研究に生涯を捧げた河野本道先生

今年3月、考古学特にアイヌ文化について研究されてきた河野本道先生が逝去されました。北海道民俗学の礎を築いた河野常吉を祖父に、博物学者の河野広道を父に持つ人です。河野先生には、昭和54年宇登呂国道334号幌別川橋脚工事に伴う幌別川口遺跡発掘調査を指揮して頂いています。その後も町内の緊急発掘調査の折には多くの人材を派遣して頂き、大変お世話になりました。私の学生時代最初の現場が、幌別川口遺跡で発掘の流儀もわからないまま宇登呂のみどり荘を宿とし朝から晩まで作業をしました。私が昼休みに現場近くで昆虫採集をしていると、「植物のことはわかるかい」と先生が聞き、「虫の食草程度なら」と話したのが切欠で、遺跡周辺の植物リストを作り報告する羽目になりました。それが契機となり花粉分析という学問の道を進むこととなりました。

最近では「知床ライブラリー・知床の考古」での執筆、博物館特別展のために「河野広道ノート」の原本の借用などお世話になりっぱなしでした。発掘現場で聞いた「面白いと思うことはどんどんやりなさい」との言葉が今も心に残っています。

### 松浦武四郎研究の第一人者であった秋葉実先生

4月には北海道(北加伊道)という地名の名付け親【松浦武四郎】の研究者である秋葉実先生が逝去されました。武四郎が残した多くの紀行文を解説し、彼の名前とその業績を広く人々に示されてきた方でした。秋葉先生には、平成10年の知床博物館開館20周年記念フォーラム「しゃり歴史再考」の際にご講演をいただき、「松浦武四郎が見た知床」という題でスライド

写真を使いながら詳しく、また、わかりやすく話をして頂きました。

先生との思い出ですが、フォーラム終了後の懇親会で「武四郎は最初、地名の候補として北加伊道を示し、その後北海道に変わったが、本当は北蝦夷道(蝦夷という字はエゾ、エミシとされ、アイヌの人々のことを示す)としたかったんだよ」と話され、私は「松浦武四郎という人は、アイヌの人々のことを本当に大切に思っていたんだ」と再認識させられた次第です。

さらに、話の中で「古文書解読は慣れれば簡単だと考えている人が多いけれども、実際には文字づらを訳すだけではなく、著者の内面の気持ちを理解することが大切。でもそれが一番難解なんだよ」とポツリと話され、歴史や書物を扱う基本姿勢を教えて頂いたような気がします。両先生には大変お世話になりました。謹んで哀悼の意を表します。

(松田 功)

発行 知床博物館協力会 2015.5.26  
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内  
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257  
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>